

補足資料：CO₂ 排出削減量の試算について

本事業は、資源循環の過程において、直接的または間接的に CO₂ 排出量の削減を達成することが必須要件であり、例えば、従来よりも高度な設備を導入することによる効率化が生産工程や中間生成物における低炭素化を促進するものでなければならない。そのため、削減される CO₂ 量を試算し、評価項目（1）実効性の欄に記載すること。試算時の計算方法、考え方等については以下の通り。

- ・ 申請書にスキーム図を示し、設備導入により見込まれる CO₂ 削減量（t-CO₂/年）について、現状（本事業行わなかった場合）と比較して試算すること。申請書には、申請者が本事業の成果によって生産する見込みの製品量あたりの CO₂ 削減量、申請者が本事業の成果によって得られるリサイクル量あたりの CO₂ 削減量等を記載すること。
- ・ 補助事業で導入する設備により現状発生する CO₂ 排出量を低減する一方で、製造工程や後工程等にて CO₂ 排出が見込まれる場合には、その点を勘案した CO₂ 排出量を試算すること。
- ・ 記載にあたっては、エネルギー起源 CO₂ 削減量と、非エネルギー起源 CO₂ 削減量を分けた上で、評価方法、原単位等の出典や算定方法等の根拠とともに、可能な限り定量的に記載すること。
- ・ 計算過程を確認できるように記載すること。また、計算に使用した想定稼働データ等も示すこと。